

子ども達に暖かい生活の場を 適切な学習の保障を



9月6日、わしの議員が愛知学園を訪問しました。この施設は不良行為をしたり、なすおそれのある児童や、環境上の理由により生活指導等を要する児童を、入所あるいは保護者のもとから通わせて自立を支援し、退所後の援助を行うところです。現在は小学6年から中学3年までの男女15人が生活をしています。

H2年に建てられた寮は、外見はきれいに見えますが、内装はあちこちに傷みが見られます。冷房はついていて、暑さはしのげますが、冬は大型のストーブ一台です(十分には暖まらないそうです)。畳や台所(食事の配膳やおやつの用意)の設備の交換、トイレの洋式化の予算化を要望していても、なかなか改善されていない現状です。

校舎や他の設備は老朽化が深刻です。この日も蒸し暑い日でしたが教室は扇風機で、夏の暑い日はやる気も集中力も出ないのは頷けます。壁もひびが入ったまま、図書室の本も入れ替えられていません。園内の外灯は立派なものが立っていますが壊れていて、日が沈んだら真っ暗で危険です。

そして、ここでは「学科指導」もすることになっています。学力の十分育っていない子が多いのが現実です。少人数で適切な学習がされることが望まれます。

暖かく迎え入れられ、大切にされていることが実感できる、安心して生活できる施設であること。そして、将来の自立をめざすにはしっかりと学力をつけていくれる施設であることが求められます。



わしの議員は15日、千種聾学校を訪問しました。幼稚部と小学部があり、中学部高等部は同じ千種区内にある名古屋聾学校にあります。

幼稚部といっても、0歳の子どもさんも月数回通っています。どんな障害や病気でも同じですが、早期に発見し対処することが重要です。小さい子どもさんは周りの大人たちがどう接するかが重要で、保護者教室も開かれています。校長先生も「できるだけ早く補聴器をつけ多くの情報が入るようにすることで、聴力の向上、言葉の発達やコミュニケーション能力の習得も全然違う」とおっしゃっていました。

重度の難聴児へは国の助成制度があり、補聴器を購入するさい一割の負担となっていますが、軽度・中度難聴児へは国の助成がなく、全額自己負担となります。中等度とはいって、補聴器なしに日常生活を送るのは困難です。補聴器は高額であるうえ、子どもの成長に合わせ、また聞こえ具合が変わるために合わせ作り変えなければなりません。

愛知県は助成制度がありません。市町村では9市町(名古屋市、長久手町、瀬戸市、豊明市、一宮市、岡崎市、豊橋市、北名古屋市)と、まだまだ少ないのが現状です。全国で助成制度がないのは、愛知県と大阪、神奈川の3府県のみです。福岡県では2014年に施行され、県が施行する前は4自治体だったのが、県の施行後54自治体にまで広がりました。愛知県は大変遅れていると言わざるを得ません。

軽度・中等度の難聴児の補聴器購入補助を 千種聾学校を視察



低年齢用の聴覚試験の器具
たいへん古くなっているが高
価で買い替えは難しい



校庭で運動会の練習をする子ども達